

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	イーリスうるま		
○保護者評価実施期間	R8年1月20日 ～ R8年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	R8年1月8日 ～ R8年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の細かな情報共有と個別支援計画書に基づいた支援に向けての話し合いの密な職員連携。	・児童の様子をケア記録として残す際に「当日の活動内容、児童の体調/情緒、園や保護者からの申し送り、トラブル、前回との比較」等細かく記載している。また、前日の様子は朝礼にて一人ずつ全体共有している。	・定期的な支援計画書の見直しを行いながら、児童の現在の到達地点を全体で把握し課題達成に向けて支援内容を煮詰めていく。また、保護者や園からの聞き取りの中で本児の取り巻く環境からの情報も大事にしていく。
2	児童受け入れや引き渡しの際に保護者や保育園/幼稚園との細かな情報共有	・児童を園からお迎えする際にその日の児童の様子を細かく共有しており、保護者引き渡しの際には事業所の様子と園からの申し送りのまま保護者に伝えられるようにしている。また、事業所での児童の様子を園の先生や保護者に見せる等の取り組み。	・保育園や幼稚園への個別支援計画書の溶融を行うことで具体的な到達地点をチームとして目指していく仕組み作り。また、園での困り感に対してのアプローチやアドバイス等がしやすいような関係作り。
3	児童発達支援から放課後等デイサービスへのサービス区分が切り替えになった際のケアとフォローアップ体制が整っている。	・年長児童に関しては次年度以降に放デイ継続の意向を確認次第、12月ごろより少しずつ移行訓練を行っている。3月末には完全に移行できるように支援員から1.2名派遣して児童の安心感を持たせながら支援している。また児発管同士の密な引継ぎの共有を行っている。	・児発と放デイ職員による対象児童の引継ぎ支援会議の実施を行うことで、現場で見た情報だけでなく感じた感覚や見立を細かく移行先に伝えることができる。また情報をシートにまとめることで全職員での周知のしやすさも行えるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童数が多い日には部屋のスペースが上手く確保できない。	・事業所内での利用者の数や児童の行動範囲、または活動内容によって静の部屋内に収まり切れなくなっていることがある。 ・児童の年齢が異年齢の為活動内容によっては集団での実施が難しい場合がある。	・活動内容や時間帯、年齢ごとに分けて部屋を調整して安全に活動できるスペースを確保する。
2	地域の保育園や福祉施設との交流が少ない。	・地域施設との交流を行うとなると児童全員が集まるまでに時間がかかってしまい、16時以降からの交流となる可能性が高く保育園や幼稚園さんとの活動の時間が難しい。	・長期休業期間中の午前中に児童がいる時期や、時間帯を選ばない施設（同施設内テナント等）への交流から始めていく。 ・地域にある児童対象の地域支援団体や子ども支援団体を招待し、外部とのつながりを作っていく。
3	感染症対策やBCP等の各種マニュアルの職員への周知が上手く出来ていない。	・マニュアルの策定はされているが児童のケース会議や活動の準備等で時間の確保が出来ていない。	・全体業務会議の時間を使用するか予め日程調整を行い全職員が出席できるように配慮して開催する。また、避難訓練等の計画書の事前読み合わせの一部分を使用し職員に少しずつ周知していけるようにしていく。